海燕社の小さな映画会 2024

会場：沖縄県立博物館・美術館 講堂（3F）
料金：1,200円（要予約） ※当日料金 1,500円
11月会（11/17）は無料上映です（予約必要）
予約はそれぞれの会の１か月前から受付けます。※小中高校生は先着10名まで無料です。
予約：海燕社 ☎ 098-850-8485/✉ mail@kaiensha.jp

九州・沖縄から 文化力 POWER OF CULTURE
後援：沖縄県、那覇市

10年目の“海燕社の小さな映画会”ラインナップ

4/21（日） 14:00~

『うむい獅子 仲宗根正廣の獅子づくり』
製作 海燕社／2022年／58分

木彫刻師・仲宗根正廣が八重瀬町志多伯の獅子加那志（神獅子）の模作獅子を新たに作り上げる工程と獅子づくりに込めた技と想いを縦糸に、八月十五夜や 33年忌豊年祭の志多伯獅子加那志の姿と志多伯の人々の獅子への想いを緯糸に、沖縄の獅子舞獅子への想いと想いを綴る。

5/19（日） 14:00~

『奥会津の木地師』
アンコール上映　製作 民族文化映像研究所／1976年／55分

日本列島には、近年まで移動性の生活をする人々が活躍していた。山から山へ移動し椀などの木地物を作る木地師もそのなかにあった。これは昭和初期まで福島県南部の山間地で盛んに移動性の活動をしていた木地師の家族、当時の生活と技術の再現記録である。

『木の生命よみがえる 川北良造の木工芸』
沖縄初上映　企画製作 ポーラ伝統文化振興財団
製作協力 桜映画社／1997年／34分

石川県山中町は挽物の産地。挽物では、はじめて人間国宝となった川北良造はこの山中で活躍している。挽物を制作する人間国宝・川北良造を追い、「欅造りの盛器」の工程を、8ヶ月間にかけて記録。後継者の育成や漆植栽事業に努力する姿、氏の内面にも踏み込む。

6/22（土） 14:00~

『ふじ学徒隊』
製作 海燕社／2012年／48分

沖縄戦で動員された女子学徒隊は 10 校およそ 500 人。激戦の本島南部でほとんどの学徒隊が半数近くの戦死者を出した。そんな中わずか3名の戦死者にとどまったのが「ふじ学徒隊」である。彼女たちが「生きる」ことができたのはなぜか。積徳高等女学校学徒隊が語る沖縄戦。

『はだしのゲンが伝えたいこと』
沖縄初上映　製作 シグロ、トモコーポレーション／2011年／32分

映画『はだしのゲンが見たヒロシマ』で語られた中沢啓治さんの被爆体験。絵本『はだしのゲン』の色鮮やかな原画を多数収録し、戦争や原爆の恐ろしさと同時に、命の大切さやかけがえのない家族への思いを伝える。中沢さんが、子どもたちへ贈る永遠の平和へのメッセージ。

7/21（日） 14:00~

『老人と海』
ディレクターズカット版　製作 シグロ／2010年／98分

与那国島 - 日本列島の南の入口に位置し、海上120キロの先に台湾が望める。東シナ海と太平洋に面し、激しい嵐が直撃することもあれば一変して穏やかな鏡の海となることもある。与那国で今もサバニを操りカジキを追う 82才の漁師、糸数繁さんと島の人々の記録の物語。

8/10（土） 14:00~

『南島残照 - 女たちの針突 -』
アンコール上映
製作 ヴィジュアルフォークロア／1984年撮影 2014年制作／64分

かつて南は与那国島から、北は奄美大島、喜界島まで、広く南島女性の象徴として見られた針突（ハジチ）の風習は 明治時代の「文身禁止令」以降、次第に廃れていった。1984 年、88 歳から 99 歳までの女性 22 人が自らのハジチについて語った 最後の貴重な映像記録。

『イザイホウ』
監督 野村岳也／製作 海燕社／1967年／49分

沖縄県南城市の久高島は、昔から神の島として知られ、年間三十に及ぶ神事が島の暮らしに組み込まれている。この久高島最大の神事が、十二年に一回午年に行われる「イザイホウ」である。1966 年の記録。「イザイホウ」は 1978 年を最後に行われていない。

10/6（日） 14:00~

『こどもの時間』
沖縄初上映　監督：野中真理子／2001年／80分

いなほ保育園は 1981 年に誕生した。最初は小さな園庭から出発し子どもたちが存分に走れる約4000坪の土地を借り、園舎を築き今日に至る。冬は大きな焚火で心と体をあたため、夏は水と遊ぶ喜びで満たす。「人生のはじまりの時間」を見つめたキッズ・ストーリー。

沖縄県立博物館・美術館 特別展「芭蕉布展」× 海燕社の小さな映画会 2024 コラボ企画
（2024年10月1日～12月1日）

11/17（日） 14:00~

入場無料（要予約：海燕社）

『芭蕉布を織る女たち 連帯の手わざ』
アンコール上映　企画製作 ポーラ伝統文化振興財団
製作協力 桜映画社／1981年／30分

南国の着物、芭蕉布。沖縄戦を境に亡びてしまった芭蕉布の復興に生涯をささげてきた『喜如嘉の芭蕉布工房』の平良敏子さんを中心に、糸芭蕉の栽培から染色、織りと一貫して共同作業で行われる製作工程を追い、製作にかかわる女性たちの思いを映し出す。

『武州藍』
沖縄初上映　製作 民族文化映像研究所／1986年／43分

武蔵国で藍作りの始まりは江戸時代という。大消費地、江戸とのかかわりから生まれた。栽培地から染めまでの伝統的技術と習俗の記録。藍は生きものだという。機嫌の良し悪しがある。藍の様子を丹念にみながら染める技術には、職人の技と祈りが込められている。

12/7（土） 14:00~

『むんじゅる笠 - 瀬底島の笠 -』
製作 海燕社／2021年／92分

瀬底島で唯一のむんじゅる笠の作り手、大城善雄さん。善雄さんは島の草分けの家「ウフジュク」の当主で島唯一の男の神人（ウフシニヘー）である。善雄さんの野良笠と踊り笠（琉球舞踊「むんじゅる」）の製作工程と瀬底島の神事、むんじゅる笠と共に生きた島の暮らしを描く。

上映作品、上映日は都合により変更することがあります。詳細は、海燕社のウェブサイト（http://www.kaiensha.jp）や SNS にてご確認ください。